

1 西宇和郡情報教育協議会

5月26日（火）に伊方町情報教育推進協議会が開かれた。情報教育推進協議会では、行政側からも主席者があり、協議会の決定を参考にして学校の情報教育機器の予算を付けている。本年度の大きな議題は、電子黒板の選定とグループウェアの更新についてであった。

電子黒板については本年度中に全小学校に各学級1台の電子黒板を設置することとなった。また、旧式化してきたグループウェアも新しいグループウェアに更新することとなった。

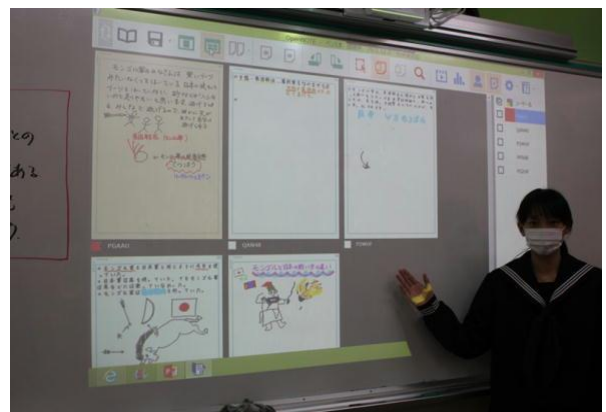
話し合いの後、業者による新製品の紹介があった。中でも、大日本印刷のデジタルペン子どもが紙に書いた資料がそのままデータとして使えるというメリットから注目された。紙も特殊な物ではなく、コピーすればよいと聞き、早速学校単位で導入を考えるとこもでてきた。

2 西宇和教育研究大会

10月28日（水）西宇和教育研究大会が三崎小・中学校で行われた。三崎中学校では、5月に紹介されたデジタルペンを早速採用しており、そのお披露目会となった。

デジタルペンのメリットとしては、作画や描画の時、その過程が分かるので便利であること、書いたものをそのままデータとして残せるので利用しやすいこと、生徒用のタブレット端末が必要ないのでペン1本で簡単に準備できること、ペンの色や太さを変えることができること、ワークシートの中に記入した文字が記入した順番に再生されるので、生徒の思考が分かりやすいこと、生徒の書いた字が小さくても、画面を拡大できるので便利なこと等があげられた。

デメリットとしては、ペンが高価であること。予算の関係で班に1本しか導入できなかったため、代表者がまとめて書くという使い方になっているようである。できれば2人に1本が望ましいと思われるとのこと。ペン1本の値段は1本約2万円である。



3 今後の課題

間もなく各校にタブレット端末が導入される予定である。しかし、アプリケーションやその利用法も未定であるため、来年度早々には教職員向けに大規模な研修を行わなければならないと考えている。まだまだ、情報機器に抵抗感のある教員もいるので、効果的に使える方法を考えていく必要がある。